

◆実践問題16◆

(妻)がふと部屋を見ると、雇い入れた女が、首を取
つて鏡台に掛け化粧をしていた。)

(妻は)主の殿(夫)に、「かかること侍るをば、い
かが計らひ給ふぞ」と言へば、「まづ何となく暇を

出だせ」と言ふほどに、女を近づけ、「近ごろ言ひ

かね侍れども、人多く侍れば、「一人も二人も暇を

出だせ」とのたまふ間、そなたのやうなる重宝の

人はましきぬほどに、いつまでもと思へども、

いづれも譜代の者にて、暇出だされぬ者どもなれ

ば、まづまづいづ方へも出でられ候へ。そのうへ、

夫の命背きがたく侍れば、重ねて娘嫁入りの折節

は迎へ侍らん」と言ふ。

- 1回目
- 2回目
- 3回目
- 4回目
- 5回目

その時、女、気色変はりて、「さては、何ぞ御覧

じて、かく仰せ候ふやらん」と、そばへ近く居寄れ

ば、「その方は何事を言ふぞ。またやがてこそ呼び

侍らめ」と、さりげなくのたまへども、「いやいや、

曲もなきことなり」とて、飛びかかりけるところ

を、かねて心得けるにや、後ろに立ち添ひける

が、刀を抜き、はたと切る。切られて弱るところを

引き直し、心のままに切れば、年経たる猫なり

$$2 = 5$$